

第1回北上市文化芸術推進会議報告書

日時 令和5年7月18日(火)
午後2時～4時30分
場所 北上市生涯学習センター
第1学習室

【出席者】

中川幾郎会長、役重眞喜子委員、阿部武司委員、八重樫信治委員、薄衣景子委員、板垣崇志委員、豊田栄治委員、阿部大司委員、千葉真弓委員
高橋景子部長、児玉康宏課長、後藤幸生課長補佐、小泉由美子係長、和泉淳樹主任

【会議の主旨】

- ・令和4年度文化芸術関連事業の点検・評価について
- ・令和5年度文化芸術事業について

【主な意見】

(1) 令和4年度文化芸術関連事業の点検・評価について

委員意見

- ▶重点事業評価シートについて。文化芸術の鑑賞をしていない人や活動をしていない人の割合を評価指標に挙げているが、「そもそも関心がない」のか「やりたくてもできない」のか、詳細な分析があるとよい。
- ▶さくらホールの利用者数が上昇傾向ではあるが、この評価数値だけで推し量れない部分はある。地域によっては文化芸術活動が少なくなっており、各地域交流センターでどのような文化芸術活動を行っているかという地域の現状を示す情報が必要。
- ▶小学生～高校生が交流できる「こどもアートスクール」の取り組みは重要。アニメやマンガも文化芸術の一部として定義されているので、この世代に関心を持ってもらえる施策を増やせば、参加人口は増えるのではないかと。
- ▶知的障がいの場合は「紙を持つ」というところからのスタートだったり、意思表示に難のある方もいるのでニーズの把握に難しさはある。福祉施設を生活の拠点にしている方も多いため、福祉サービス事業所との連携が必要。障害者福祉展の参加団体数を指標にしているが、会場の来場者数や、障がいの家族などの関係領域とそうでない数値の把握ができればよい。
- ▶子供たちが10年～20年後、どういう文化芸術の視点をもった大人になっていてもらいたいのか、今からイメージを持ちながら、先を見据えた計画を進めてほしい。今後AIが文化芸術に及ぼす影響も危惧しないといけない。また子供たちの文化芸術施策について実際の現場の声を拾った具体的な報告書があるとよい。
- ▶公民館や交流センターなど、小さい単位の文化芸術活動も数字を把握してもらいたい。
- ▶現状の教育現場で、音楽・図工・家庭科などの内容が削られていないか心配。その分総合学習などで補完されているかもしれないが。
- ▶把握しておきたい数字として、企業で文化芸術活動を行っているところもあるので、その数字があれば（ボイス2階の入館客数など）。
- ▶R4実績として補助金額が記載されているが、何をどのくらい市が負担しているのかが見えない。

次ページへ続く→

会長（総括）

- ▶重点評価シートは全事業分が必要なので完成させておくこと。きちんと担当課にまとめさせるべき。
- ▶大型舞台だけでなく、地域の文化芸術活動について把握すること。
- ▶定点データはどんなものがとれるか。どんなアンケート項目が適切か、場合によっては洗いなおす必要がある。微調整だが、計画はフレキシブルに変えてよいのでその際は会議で提案を。
- ▶障がい福祉課がきちんと障がい者の芸術文化施策を行うべきである。生涯学習文化課は施策立案の働きかけをしてもらいたい。
- ▶アウトリーチはきちんと条件づけを行うこと。堺市や東大阪市は、書面審査、権利に関する学習、MCのトレーニングを条件化している。講師の選定条件として「プロモーターが推薦しているから」はダメである。いい悪いの判断は、観客にしてもらうこと。
- ▶市民に文化芸術を供給できているかのチェックとして「アートの種類に偏りはないか」「どんな年齢層でも大丈夫か」「学校教育の中で行うか」「社会教育で行うか」「障害があっても大丈夫か」「低所得でも大丈夫か」等のチェックをすること。個別事業一覧でチェックをかけていくと、このジャンル・この層が弱い、などの強弱が出てくるはず。
- ▶数字に表れない部分は、当事者からのインタビューやケーススタディなど、不満や意見などを吸い上げて補強すること。数字だけにかからめとられないように。

（2）令和5年度文化芸術事業について

- ▶深掘り鑑賞会は、募集人数20人は少ない。よい試みなので生涯学習の一環として進めてほしい。
- ▶高齢者施策では「高齢者をサポート」もしくは「高齢者が参加」した場合、ポイントをもらえる制度を作っている。そういった分野に参画してポイントをもらえるようにするなど部署同士横の連携が必要。
- ▶未就学児の美術アウトリーチは「アートスタート」が適切な表現。今後音楽やダンスなど別ジャンルにも広げることが望ましい。今年度はステップアップのパイロット事業にするとよい。
- ▶こどもフェスタの講師は、美術館の専任研究員だけでなく、高校美術部の学生を参加させることで連携を広げることができるのではないかと。
- ▶シビックプライドコンサート（仮）については、率直に「雑音出す人も歓迎」の意図を前面に出してもよいのでは。「ワイワイガヤガヤ何でもコンサート」など。イベント趣旨は大きく告知すること。
- ▶シビックプライドコンサートはよい試み。ただ一言で文化芸術と言っても全ての分野に興味関心がある人はそれほどいないのでターゲット層はもう少し精査したほうがよい。
- ▶企業誘致による若者の外部流入者に対しての施策がほしい。企業に対してアプローチする試みも必要。
- ▶仙台フィル鑑賞はインリーチ事業。財団が申請をとりまとめたので、この努力をきちんと評価する仕組みをつくるべきである。文化庁の補助事業を活用すると、単発で終わる可能性がある。今回網羅しきれなかった残り50%のターゲットをどうフォローするかは今後の課題。本来なら市の施策事業として行うべき事業である。

5 次回開催予定

令和5年12月8日（金）午後を予定。